

米沢市で小水力発電

地域とパートナーシップ

飛島建設
オリコンサル



取水口

飛島建設とオリエンタルコンサルタンツが山形県米沢市に建設していた「米沢大平小水力発電所」が運転を開始した。最大出力は198キロワット。両社が手掛ける4カ所目の施設になる。地域や自治体と密接なパートナーシップを構築。最上川水系横川に地域が設けた既存のかんがい用水設備を一

部更新、共用して発電する。所在地は大平弥次兵衛前33ほか。2020年5月に着工し11月3日から運転を始めた。年間発電量は113万キロワット時で運転期間は20年間。発電した電力は東北電力に売電する。発電設備は三相横軸誘導発電機、横軸クロスフロー水車を採用した。有効落差

は96・6メートル、最大使用水量は毎秒0・25立方メートル。取水施設は既存の大平堰を改修して活用。沈砂池や除じん機付きのヘッドタンク、水圧管路（径450ミリ×1496メートル）、発電所建屋（S造平屋50・22平方メートル）などを新設した。豪雪地域のため、物置小屋に除じん機を収納するなど雪対策を講じている。建築・土木工事は仁科工務店（米沢市、仁科晴人社長）が手掛けた。新設した水圧管路は地域のかんがい用水路として共

用。老朽化した既存施設の補修を行うなど、地域負担となる水路の維持管理費用を軽減する。維持管理の一部は地元管理組合に委託し、雇用創出など地域課題の解決に貢献していく。両社は今後も同様の発電所建設を計画。飛島建設の高橋宏之グリーンインフラ開発部長は「小水力発電は日本の風土にマッチし、ゼネコンにとっても非常に親和性がある。事業を継続し地域に貢献していきたい」と意欲を見せる。